



在京関中一高会 会報



ご挨拶

在京関中一高会会長 柳澤 惇 (昭和32-56回卒)



在京関中一高会の皆様へ於かれましてはご健勝にてお過ごしのことと拝察致しております。

早いもので昨年3月11日に東日本大震災で未曾有の被害を被りましてから2か月近く過ぎようとしています。今、やっと本格的な復興が緒についたところでしょうか。

昨年の総会で、その惨状を目の当りにし聊かでもお見舞いの気持ちと復興を願う気持ちから義捐金を募りましたところ振込み者360名余、約140万円が集まり直ちに母校に送金しました。そして昨年秋の本部同窓会で同会長及び母校校長先生から丁寧なる感謝の意を表されました。ここにご報告方々改めて皆様方の母校や故郷への熱き想いと関高魂の底力に我々役員・幹事一同心より感謝申し上げるとともに誇らしくさえ思います。

一方、悲しいことばかりではなく朗報もありました。そうです、平泉の中尊寺を中心とする浄土思想に根ざしたその景観が世界遺産に登録されたことです。

これは千年に一度といわれるほどの大惨状に見舞われたにも拘わらず外国で見られるような略奪行為のようなことはなく運命を甘受しやさしく且つ整然と対応し打開に立ち向かう東北人の姿があった、ことが大いに世界に共感を呼んだことが力になったのではないのでしょうか。それ以来、平泉への観光客が激増しているとの事ですが、最近NHK等でよく平泉文化が取り上げられましたが、ともすれば西の歴史が中心の日本史ですが多くの人に藤原氏三代の文化が理解されることは誠に喜ばしいことです。

さて、本年のご講師は皆様つとにご承知の前岩手県知事で元総務大臣の増田寛也先生であります。先生のご父君は昭和6年卒で参議院議員を務められたわれらが先輩の故増田盛先生です。そのような縁もあって増田先生は一関にこのほかに親近感をお持ちとお聞きしており、こころよく今日のご講師をお引き受け頂いた次第であります。

今日の演題は「『3・11』から東北・日本を考える」です。誠に時宜を得たテーマであり皆様是非に総会にご出席下さり増田先生のご講演を拝聴して頂きたくご案内する次第であります。

春遠からじ

一関一高同窓会会長 佐藤 悦郎 (昭和21-45回卒)



東北はまだ厳寒。3月末になっても降雪が続いて、いつ陽春の日を見るのかと不安をもちながらも、旬余を置かずして花便りが聞こえるだろうとの思いを強くしております。

東京支部の皆様、御健勝のこととお慶び申し上げます。

大震災後1年以上を経過しました。其の節皆様から母校に寄せられました多大なる御芳志に厚く御礼申し上げます。学校も復旧されまして、新学期は中高の教職員20余名の新任をみて、心も新たにスタート致しました。

昨年の10月の総会は役員改選があり、永年副会長で御尽力を頂いた松本副会長が退任され、後任に会計監事の熊谷徹哉氏が就任。熊谷氏の後任に阿部興紀氏が監事に就任されました。新任の熊谷・阿部両氏は同窓会に精通されていられる方であり今後の御活躍に御期待申し上げます。

各支部は、新しい企画を盛り込みながら活発な運営が見られていますことは誠に御同慶に存じます。

一方、津波災害の沿岸支部の釜石・大槌支部と気仙支部(高崎会)につきましても、痛手も多く同窓生の方々も御逝去されております。心から御冥福をお祈り申し上げます。又、支部役員の方も大津波に遭われ、家屋の流失という最悪の打撃を受けております。支部活動の再開には、もう暫くの時間が必要と存じます。

本年度東京支部総会の記念講演の講師は、前岩手県知事の増田寛也氏と拝聴しました。

皆さん御承知の通り、一高校舎の全面新築の企画立案をされた知事さんであり、その際丁度一高野球部の甲子園出場の際の盛岡支部総会には、お父上(故増田盛国会議員)が関中卒という誼をもって御出席いただいた経緯があります。数え切れない深い御縁の講師に、大変楽しみにしております。

本年も、同窓会運営によりしく御高配を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶と致します。

同窓生の温かい絆に感激

一関一高 校長 木村 毅



在京の同窓生の皆様には日頃らご支援と励ましを頂き感謝申し上げます。特に、昨年の大震災による被災者支援のために多額のご支援をいただきましたことに、心から御礼申し上げます。ご支援いただきましたお金は、被災した9人の生徒の学業にかかわる諸会費の補助に充て、残りは今年度分の補助に充てたいと考えております。援助を受けた保護者からも大変感謝され、改めて関中・一高同窓生の温かい絆に感激しておりました。

一方、震災による学校の損壊箇所は全て昨年11月までに修理工事が終わり、さらに今年の3月にはグラウンド東側に二階建ての屋内運動場(1階は柔剣道場、2階は体育館)も完成しました。大変ありがたいことです。ただ、地震や災害がこれで完結したというわけではないことも肝に銘じておかなければならないと思っております。

さて、この3月に三年生がそれぞれの進路を達成して学舎から巣

平成24年度総会・講演会・懇親会

平成24年6月17日(日) 午前10時半受付開始

東京(大塚) ホテルベルクラシック東京

<特別講演>

「『3・11』から東北・日本を考える」

講師：増田 寛也 氏

立っていきました。4月には、附属中学校から進級してきた生徒78名と一般入試を突破してきた生徒163名が関高に入学してきました。この生徒は校訓「切磋琢磨」をまさに実践することになります。そして、創立114年目の関高の歴史に新たな1ページを刻んでくれるものと期待しております。

いつも新入生を歓迎してくれる磐井川堤防の桜は伐採されましたが、今年はグラウンド東側に残っている18本の桜が見事に花を咲かせてくれるものと思っています。

平成23年度在京関中一高会 総会・講演会

第1部 総会



柳澤会長挨拶

同窓会長挨拶

母校校長挨拶



44回（昭和21）
～55回（昭和31）

56回（昭和32）
～60回（昭和36年）



61回（昭和37）
～79回（昭和55年）



第2部 講演会

『もっと知ってほしいスウェーデン』

講師：ヤンソン柳沢由実子氏（昭37-61回卒）



第3部 懇親会

平成23年6月19日 ホテルベルクラシック東京



同期会ニュース

二六会 (50回-昭26) : 傘寿 (80歳) 記念懇親会。本年4月14日、中野サンプラザで。全国から78名参加。(久保田武光)
二九会 (53回-昭29) : 「最終修学旅行」: 平成8年から1年おきに始めた「二九会修学旅行」は、「富士は日本一の山」をじかに仰ぎ見ようとゆったり、のんびりと富士五湖巡りを実施(昨年11月14~16日)。参加者は総勢31名。皆意気軒昂に富嶽三十六景を堪能。添乗スタッフからは「スマートでインテリジェ

ンスのあるグループ」と称賛されながらの一閃弁豊かな道中でした。来年は「喜寿」也。(佐々木久)
珊瑚会 (59回-昭35) : 「古希の祝いの会」。仙台珊瑚会の主催で平成23年10月25-26日に仙台・秋保温泉・蘭亭で開催。全国から68名が参集。関東からは25名が参加。
なお、関東地区珊瑚会の総会・懇親会は、今年度は5月16日(水)に開催の予定。(高岡繁)
43年卒同級会 (67回-昭43) : 昨年の大震災で延期になったが会津若松にて開催。東山グランドホテルにて懇親会。大内宿、飯盛山、蕎麦堪能。全国より29名出席。(海野哲壽)

会員トピックス

久保田武光 顧問 (50回-昭26) : 昨年の大震災後、大船渡を中心に所属のボーイスカウト世田谷14団と三陸ボランティア。3月20日は、梵天太鼓演奏会(打ち手58名)開催。柳澤会長他東京・一関の同窓生も支援。
『ミュージカル「平泉」~夕焼けの向こうに』大船渡公演6月10日、大船渡市民文化会館。実行委員会阿部興紀氏(56回-昭32)。
佐藤成元 (51回-昭27) : 日展 日本画会員。3月28日~4月2日に松屋銀座で開催の第47回日春展に入選。題は「宝もの」。最愛のお孫さんがモチーフ。
伊藤孝雄 (54回-昭30) : 劇団「民藝」俳優。2月3日~14日、新宿紀伊国屋サザンシアターで民藝公演「静かな落日」に出演。戦後最大の冤罪事件といわれた松川事件にペン一本で挑んだ広津和郎役として出演。2月5日終演後同期生による伊孝会に24名出席。
菅野照夫 (54回-昭30) : 書家菅野雲棼。墨林書道院常任理事、8月2日~9日(月休館)第41回墨林総合書展に理事出品。会場は新装の上野・東京都美術館。後援東京都教育委員会。
千田隼生 (56回-昭32) : 劇団「銅鑼」俳優。創立40周年を迎え、創立メンバーとして活躍中。
菅原チネ子 (56回-昭32) : 劇団「朋友」俳優。3月に、みつわ会公演。久保田万太郎作「十三夜」で好演。4月に朗読コンサート、7月に42回公演「ら・ら・ら」と大活躍。
千葉忠夫 (58回昭-昭34) : NPO法人日本・デンマーク生活研究所理事長。デンマーク在住。たびたび訪日して活躍中。5月には、八幡平市で、7月には定山溪温泉で研修塾開催。NPO法人総会は、5月12日小伝馬町で。ホームページは、<http://home.do2.itscom.net/denmark/>
及川忠雄 (59回-昭35) : 明治大学兼任講師。QKマネジメント研究所代表。3月に、川崎市産業会館でのNPO科学技術フォーラム「多様化する日本の電力エネルギーを考える」で、「原子力発電のリスク管理一次世代満足度を視野に入れた活動を」と題して講演。行政・東電を叱り、自然エネルギーの活用、エネルギー消費の最適化を訴えた。
島地勝彦 (59回-昭35) : 作家、元集英社インターナショナル

社長。平成21年以降7冊を上梓。近著は、「知る悲しみ」(講談社)。ネット、雑誌のエッセイ、人生相談でも高い人気。
◎「資生堂MEN TREATMENT & GROOMING @ Shimaji Salon」(男のおしゃれ、人生観を語る)
4月6日(金)スタート! <http://www.shiseido.co.jp/gb/smn/salon/>
◎「Nespresso Break Time @ Cafe de Shimaji」(講談社のwebマガジン「現代ビジネス」で、対談の新連載)
<http://gendai.ismedia.jp/>
◎「乗り移り人生相談」(日経ビジネスアソシエオンライン 毎週木曜日)
<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20100520/92079/>
小林紘一 (59回-昭35) : ((株)パレオ・ラボ取締役顧問(理学博士)。AMS(加速器質量分析法)を利用しての、考古学遺跡や遺物の年代測定を研究・確立した権威。AMS分析の結果、過去に判定された遺跡・遺物の年代が見直されたものも少なくない。昨年10月開催の、一関一高同窓会総会で「年代測定の新技术とその応用~国指定重要文化財 彦部家住宅の年代測定」と題して講演。原点は宇宙の研究で、赤木山麓の施設で研究と自然を楽しむものの、今は放射能問題に心を痛める。
小山芳郎 (63回-昭39) : 元NHKディレクター、フリージャーナリスト。「地球システム・倫理学会」「総合人間学会」「日中関係学会」「後藤新平之会」に所属し、「3.11後の地球上の人間のあり方」を探究中。5月27日(日)日大文理学部での総合人間学会総会で、「3.11を日本のノー電気デーに」と題して提言を発表予定。
佐藤(宇田川)恵利 (83回-昭52) : オペラ歌手、ソプラノ。昨年9月に母校の山目小学校でオペラ鑑賞会。震災復興応援。4月に上野奏楽堂でリラの会コンサート等で活躍。
中田江利 (92回-平5) : なかだえり イラストレーター、建築設計者。北千住で190年前の蔵をアトリエとし、多彩に活躍。震災復興支援に尽力。高田松原に残った一本の松の木をテーマに、昨年10月に絵本「奇跡の一本松 大津波を乗り越えて」を出版。大人にも大好評。昨年10月22日、一関一高同窓会仙台支部総会での講師に招かれ「絵とともにめぐる岩手、東北の風景」の題で講演。講演の最後に前記「奇跡の一本松」を朗読。一同大きな感動をうける。

クラブOB会ニュース

母校野球部の首都圏遠征は昨年は東日本大地震のため、中止としましたが、今年は初めて山梨・甲府での練習試合となりました。県立・甲府城西高、私立・日本航空高との2日間4試合行いました。残念ながら全敗となりましたが、打線・打力は良いので夏に向けて投手陣・守備力を強化して結果を出せる戦力と期待したいものです。

その後甲子園でのセンバツ大会を観戦して、生徒・選手は故障者もなく、帰関しました。
今年も、在京関中一高会より、貴重な陣中見舞金をいただき有難うございました。
23年度総会実施 : 23年11月19日、本部OB会長・監督を迎えて銀座・サンミ高松にて総会・懇親会を行いました。大学を卒業し社会人となる後輩を激励し、会員OBの懇親を深めました。
この席で厚い母校愛を披露した佐々木徳郎OB(34年卒)が12月23日に他界したのは残念でなりません。

事務局便り

●事務局の住所が変わります。
昨年5月に、本会事務局をお願いしている黒澤合同事務所が移転しました。新住所は、下記のとおりです。
〒164-0001 東京都中野区中野4丁目4-11
●昨年の3・11では、本会ホームページが同窓生の利用で活用されました。同窓会での写真等も掲載されています。利用者のニュース提供を歓迎します。同窓生の活躍を人生の支えとしていきたいものです。

●在京関中一高会のホームページアドレスは、
<http://www.ichinoseki-1.com/>
【岩手県人連合会ニュース】
平成24年度「岩手県人の集い」は、6月10日(日)10時受付開始。会場：日暮里・ホテルラングウッド。
参加費：一人 8,000円(家族は2名で 15,000円)。
参加希望者は事務局まで。
連合会ホームページ参照。 <http://www.rengokai-iwate.jp>
(幹事長 清野 翼)